

第1回春日井市総合計画審議会 議事録

1 開催日時 令和4年6月20日(月)午前10時00分～正午

2 開催場所 春日井市役所 第3委員会室

3 出席者

【会長】	中部大学	教授	寺澤	朝子
【副会長】	春日井市社会福祉協議会	会長	黒田	龍嗣
【委員】	安全なまちづくり協議会	代表	青山	克子
	まちづくりポニター連絡会			
	名古屋大学	准教授	浦田	真由
	春日井商工会議所	会頭	大辻	誠
	公募委員		大床	雅子
	春日井市スポーツ協会	理事長	河村	元夫
	公募委員		後藤	純子
	春日井市保育連盟	会長	長岡	龍男
	かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議	会長	二宮	久夫
	春日井市区長町内会長連合会	会長	平出	幸広
	春日井市文化協会	会長	山本	博
【事務局】	企画政策部	部長	勝	伸博
	企画政策部企画政策課	課長	鈴木	博明
		課長補佐	後藤	邦昌
		主査	上河原	直人
		主任	林	大生
		主任	坂本	峻

4 議題

- (1) 第六次総合計画の概要について
- (2) 施策の実施状況等について
- (3) 社会経済情勢について
- (4) 総合計画基本計画の中間見直しについて
- (5) 市民意識調査の結果について

5 会議資料

- 資料 1 春日井市総合計画審議会委員名簿
- 資料 2 春日井市附属機関等の設置等に関する指針（抜粋）・議事録等の作成に関する指針（抜粋）
- 資料 3－1 施策の実施状況について
- 資料 3－2 成果指標の現状について
- 資料 4 社会経済情勢について
- 資料 5 総合計画基本計画の中間見直しについて
- 資料 6 市民意識調査の結果について

6 議事内容

議事に先立ち、委嘱状の交付、諮問、市長挨拶、会長・副会長の選出及び会議の公開等の審議を行った。

(1) 第六次総合計画の概要について

【事務局】

第六次春日井市総合計画書に基づき説明

(2) 施策の実施状況等について

【事務局】

資料 3－1 及び 3－2 に基づき説明

(3) 社会経済情勢について

【事務局】

資料 4 に基づき説明

(4) 総合計画基本計画の中間見直しについて

【事務局】

資料 5 に基づき説明

(5) 市民意識調査の結果について

【事務局】

資料 6 に基づき説明

【寺澤会長】

これまで事務局から説明があった内容について、ご意見等があればお願いしたい。

【大辻委員】

子育て支援について、不登校に至った原因を明らかにすることが大事だと考える。また、児童虐待に関する対応も必要である。その他、人口 30 万人を超えると事業所税が課税される。敷地面積と従業員数によって決まり、赤字企業にもかかる。人口を 50 万人に増やすことや事業所税を廃止することを企業側としては検討していただきたい。

【寺澤会長】

確かに、いじめや不登校などの教育に関する問題は、子育てのまちとしての強化を図っている春日井市にとって、取り組んでいくべき項目のひとつである。

【青山委員】

私は市の防災防犯アドバイザーをやっている。活動を通じて、市民の方は水害に対する意識が高い一方、地震が来ることに対する意識は、水害ほど高くないように感じる。

防犯に関しては、地域で見守り活動もしているが、子どもたちの横断歩道の渡り方について、親たちが悩んでいる。鳥居松校区の話になるが、班長さんの負担が大きいいように見える。何とかならないかとの声もあり、現在は班長と副班長が協力している。ある学校では旗を持たせないこともあると聞く。子どもたちの交通に対する大人の取組が各学校でどのように取り組んでいるのかいつも気になっている。

【寺澤会長】

青山委員のご意見を聞いて、市民意識調査における「防災・減災」の重要度が低下した理由に納得がいった。

【浦田委員】

令和 3 年度の市民意識調査から、デジタルに関する設問を追加していただいたことは良いと思っている一方、デジタルはどの分野にも関連する部分があり、行政のデジタル化と市民サービスのデジタル化では、市民が回答するときも話が変わってくると思われる。

【寺澤会長】

デジタルといっても、イメージが違うのでアンケートの難しさが出る。

【事務局】

市民意識調査では「デジタル技術を活用した市民サービスの向上」に関する満足度と重要度としている。

【大床委員】

先日、防災の HUG ゲームをする企画があったので参加した。そのとき分

かったことは、災害時に何をしていたかわからず、適切な行動がとれないということ。まずは、どこに何があるかということを知ることからでも始めてみる必要性を感じた。

また、子育て関係について、子どもの不登校については、ここ数年で学校の対応が変わってきているように感じる。意識はだいぶ変わっていると思われるが、それを支える親に対しての支援ももう少し充実した方が良いのではないか。

【寺澤会長】

中部大学では、学生を対象に「避難所 HUG」が活発に行われている。このゲームは、防災に関する市民の啓発活動にとっても良いことだ。学生とシニアボランティアの方と一緒にあって、避難所のことを考える良い機会になる。

また、不登校についても、かつては登校拒否という言葉で呼ばれていたが、学校に来ていないだけと意識も変わってきている。

【河村委員】

市民意識調査結果から、魅力と誇りの数値が低く、魅力がないのかと読み取れる。しかし、スポーツの観点から見ると、春日井市出身の姫野選手は、ラグビーワールドカップでベスト8に進出した日本チームの選手である。このような選手を育て上げた実績は、まちの魅力のひとつではないか。

また、子どもに比べて大人の方がまちの魅力に対する評価が厳しい。これは少し寂しく思う。

【後藤委員】

町内会での話だが、10件中9件の会員が退会し、回覧板が回ってこなくなかった。5件は高齢者の家庭で階段を上って回覧板も届けられないなどの理由から、退会したと事後報告だった。

市民意識調査の結果でも、高齢者の生きがいや、町内会支援などの市民参加が低下している。

【寺澤会長】

回覧板がないと、市の重要な情報が入ってこない。市の紙ベースの情報について、デジタルを活用して情報を入手しているというわけでもない。情報の行き届かない世帯が出てくる可能性がある。これは行政にとっても地域にとっても深刻な課題や問題となり得る。

【二宮委員】

市内には様々な団体があるが、皆さんが会議や役員会に出て来ることにも困難で、予算も人手も足りていない。コミュニティ形成を頑張ろうとしているが、なかなか難しい。

ささえ愛センターを充実することで各種団体の代表も情報交換できるのではないかと。交流を図り、コミュニティを広げることが必要であり、広げる手立てが求められる。

【寺澤会長】

つながりを活性化することが重要である。

【平出委員】

行政で加入促進チラシなどを作成しているが、町内会に入るメリットについてよく聞かれる。加入世帯数が5年間で300件減っている。また、高齢で役員ができない方や、町内会に興味がない若い方が多い。私は自営業のため、活動に参加することや会議などに出席することができるが、サラリーマンは難しい。そのため、町内会の役員負担を軽減することが課題である。

【寺澤会長】

市民の参加をどのように促すかを検討することは重要である。

【山本委員】

春日井市は、市民意識調査の結果も含め、コロナの影響がある中で、一般的によくやっている。総合計画では、弱いところをどうしていくかということが重要である。

最近マンションのような住まいの形態が多くなってきている。コミュニティが希薄化しており、横のつながりも無くなってきているように感じる。行政で町内会に入るメリットを考えてもらわないと町内会は維持できない。

また、市民意識調査の結果を見ると、「交通の利便性の向上」が今後重要な分野の上位に入っている。個人的には不便に感じたことがなかったので意外だった。

そのほか、外国人は地域コミュニティの救世主の可能性のあるものの、その実態や交流方法がよくわかっていない。接点を増やし、文化交流を図れる機会があれば良い。

【事務局】

地区によって交通の利便性に違いがあり、それが今回の結果につながったと考えられる。詳細については、改めて分析していく。

また、外国人との交流を把握することは、事務局としても重要であると考えている。今後の参考にしたいと考えている。

【黒田副会長】

市民意識調査の結果を見ると、「高齢者の生きがい」の満足度が下がっ

ている。高齢者総合福祉計画の中でも、高齢者の生きがいをどのように高めるかの議論は必要である。

また、町内会の役員のみ手が減少している現状はあるものの、各団体の連携が取れているということは、比較的町内会の中で理解が得られているからではないか。

そのほか、ごみの分別自体は良いことだと思うが、高齢になるにつれて分からなくなる。そのため、町内での支え合いや助け合いが重要である。

【寺澤会長】

高齢者福祉に関しては、ゴミの分別をどうするかということも含めて対応していくことが必要である。

これからは、自助・公助・共助のうち、共助をどうやって春日井市が維持し、それに関する意識を高めていくかということが今後の市政にとって大変重要な課題になってくる。今回、皆さんのご意見からはっきりしたと思うので、中間見直しの際に反映できれば良いと考えている。

7 その他

上記のとおり、第1回春日井市総合計画審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び副会長が署名する。

令和4年7月15日

会 長 寺澤 朝子
署名人 黒田 龍嗣